



第1章

ビジョン策定にあたって



1 ビジョン策定の背景と趣旨

近年、外国人住民の増加及び多国籍化が進んでいます。国においては、2020年（令和2年）に「地域における多文化共生推進プラン」を改訂し、国籍や民族等の異なる人々が、互いの文化を認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていく多文化共生の取組を推進しています。

福山市を連携中枢都市とした、三原市、尾道市、府中市、竹原市、世羅町、神石高原町、岡山県笠岡市及び井原市で構成された備後圏域においても、外国人人口は年々増加し、近年ではベトナムをはじめとした東南アジア諸国出身者の増加等による多国籍化、在留資格の構成の変化など、備後圏域を取り巻く環境は大きく変化しています。

備後圏域7市2町は、日常生活圏が広島県と岡山県の県境を越えて重なっており、外国人住民も市町を越えて通勤などで移動し生活しています。地域の活性化を始め、多文化共生社会の実現に向けて、備後圏域全体で連携しながら取り組むことで、より一層効果的なものとしていくことができます。

こうした状況を踏まえ、備後圏域における外国人住民を取り巻く現状や課題を明らかにし、備後圏域7市2町で共通の方向性を持ち、多文化共生の取組を推進していくための「びんご圏域多文化共生推進ビジョン」を策定します。

2 ビジョンの位置付け等

(1) ビジョンの位置付け

本ビジョンは、福山市を連携中枢都市とし、三原市、尾道市、府中市、竹原市、世羅町、神石高原町、岡山県笠岡市及び井原市で構成された備後圏域が、各地域の独自性や個性を生かす中で、一体的に発展していくための新たな成長戦略として策定された「びんご圏域ビジョン」と整合を図るものとします。



びんご圏域ビジョン



(2) SDGs との関係

本ビジョンは、SDGs（持続可能な開発目標 Sustainable Development Goals）の目標1「貧困をなくそう」、目標3「すべての人に健康と福祉を」、目標4「質の高い教育をみんなに」、目標8「働きがいも経済成長も」、目標10「人や国の不平等をなくそう」、目標11「住み続けられるまちづくりを」、目標16「平和と公正をすべての人に」、目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」の目標に関連付けられ、この8つの目標達成に向けて取組を進めていきます。



SDGs について
(外務省ホームページ)



3 ビジョンの期間

2025年度（令和7年度）から2029年度（令和11年度）までの5年間を対象期間とします。

※びんご圏域ビジョンの計画期間：第2期：2020年度（令和2年度）から2024年度（令和6年度）

第3期：2025年度（令和7年度）から2029年度（令和11年度）

4 用語の定義

「多文化共生」とは

「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」

（総務省：「多文化共生の推進に関する研究会報告書」より）

「外国人住民」とは

「住民」とは、当該市町の区域内に住所を有する人のことをいいますが、備後圏域の市町以外に住所を持ち、備後圏域市町に通勤や通学をしている人もいます。

また、「出入国管理及び難民認定法」では「外国人」を、日本の国籍を有しない者と定めていますが、市内や備後圏域市町には日本国籍を有しながらも様々な文化的背景を持つ人や、外国籍を持ちながらも生活者として長く住んでいる人もいます。

このプランでは、日本国籍の有無にかかわらず外国にルーツを持ち、本市や備後圏域に関わりのある人を「外国人住民」という言葉で表現します。